

# 会議録

会議の名称	第6回子どもの居場所部会					
事務局	子ども家庭部子育て支援課					
開催日時	令和3年6月28日(月) 18時30分から20時03分まで					
開催場所	小金井市役所第二庁舎8階 801会議室					
出席者	委員	部会長	萬羽 郁子	委員		
	事務局	職務代理	水津 由紀	委員		
部会員			北脇 理恵	委員	古源 美紀	委員
			鈴木 恭子	委員	鈴木 隆行	委員
			谷村 保宣	委員	村上 洋介	委員
		子育て支援課長	富田 絵実			
		子育て支援係長	古賀 誠			
		子育て支援係	山下 真優			
		児童青少年課長	鈴木 剛			
		児童青少年係長	前田 裕女			
傍聴の可否	可					
傍聴者数	2人					
会議次第	1 開会 2 子どもの居場所について 3 閉会					
発言内容・ 発言者名(主な 発言要旨)	別紙のとおり					
提出資料	1 資料15 子どもの居場所部会報告書の概要(案) 2 資料16 意見・提案シート					

## 第6回子どもの居場所部会 会議録

令和3年6月28日

○萬羽部会長 ただいまから、第6回子どもの居場所部会を開催いたします。

次第の(2)子どもの居場所についてを行います。前回に引き続き、子どもの居場所について、審議したいと思います。

初めに、事務局から資料を提出いただいておりますので、事務局からの説明をお願いします。

○子育て支援係長 本日は皆さんのお手元に資料15、子どもの居場所部会報告書の概要(案)を配付させていただいております。本資料は前回の本部会で回答させていただきました資料13をベースにして、部会員の皆様から御提出いただいた宿題を基に部会長と職務代理に調整を頂いております。

なお、調整に際しまして、配慮した2点につきまして、この場を借りまして、報告をさせていただきます。

まず1点目、子どもの居場所をつくったり、調整していく大人の目線から見た大切な視点であるため、行政言葉ではなく専門家ではない大人も分かるような平易な文章にしました。

2点目、施策提言の部分について、「子どもが暮らすまちが安全であること」について、今までの議論の経過から加えております。

以上の2点が、調整に際しまして、配慮した点となります。

なお、本日は資料16も併せて配付させていただいておりますが、資料15に関わる御意見も頂いているところであり、この意見提案シートも参考にしながら調整させていただいたことを併せて報告させていただきます。

また、本資料につきましては、部会員の皆様に事前に御意見を伺ったところ、御意見を頂いておりますので、その御意見を反映したものを本日資料15-2として机上に配付させていただきます。

次に今後の予定について、お知らせさせていただきます。本日の部会で、この報告書を固めていただきまして、7月9日に開催される子ども・子育て会議での報告をする予定です。仮に、その子ども・子育て会議で、再度子どもの居場所部会で話し合ったほう

がいい点が出てくれば、改めて7月に開催予定の子どもの居場所部会で御協議いただくこととなりますけれども、そうでない場合は本日を最終回とする予定です。

事務局からの説明は以上です。

○萬羽部会長 事務局から、御説明いただきましたが、こちらの内容についてよろしいでしょうか。少し御確認ください。

それでは、資料15及び15-2につきまして、何か御意見がありましたら、お聞きしようと思います。

○萬羽部会長 では、何か御意見がありましたら、お願いいたします。

○村上委員 全体的にはすごい整理していただいて、バランス取れているのかなという印象はあるんですけども、もう一方で、これは1、2、3で合っているんですね。「子どもの居場所とは」というのがあって、「大切な視点」という項目があって「施策提言」で、全体的な印象として浅いというか、バランス型になっちゃっているんで、もうちょっと「ここはやってほしい」みたいなところを、意思を込めたものを入れたほうがいいなって。

全体の中で考えると施策提言のところ、ちょっと力が入った文言を入れたほうがいいんじゃないかなと思いますので、具体的に言うと、3番4番と中間支援があるところと運営に対する支援というところで、ストレートに言うともっと財政的な支援をよりよくするためとか、持続化するためにもっと厚くしてくれみたいところを入れたいなど。

市の補助制度を検討するってすごく浅い感じがするし、あと3のところも「つながりあうことができるような支援を行う」というところで、もうちょっと具体的な。これは何を目指しているかも確認しなきゃいけないんですけども、もうちょっと具体的なものを入れたほうが、メッセージ性は強まったかなと思います。

○萬羽部会長 ありがとうございます。

ほかにかかがでしょうか。

今のものに関して、もし具体的にどのようなことを入れたらいいかというところもありましたら、お願いいたします。

○谷村委員 度々同じような質問なんですけれども、1番で大きな概念を入れて、2番でその施策に対するところ、施策の条件みたいなものをうたっているという認識なんですかね。

○子育て支援課長 1番が概念を書いている、2番がその中で重要なところの柱化をしていて、その中

で、柱の中は基本的に「居場所のあるべき姿」というか、基本。居場所をやっていただくに当たって、居場所の運営者の方にも留意していただきたいところとかが載っているわけです。

なので、その全てが施策に反映するわけではなくて、居場所をやる人が気をつけるところも入っているわけなので、その中で施策につながってくる部分について、3番の施策提言になってくるという考え方です。

○谷村委員 何となく分かったような分からなかったようなところなのですが、そういう点でいくと村上さんが気にされているようなところとして、多分全ての子どもに居場所があることというところと結びつく施策提言が、いまいち包括しきれていないのかなというのがあって。じゃあこの全ての子どもに居場所があること、居心地が悪い子とかがいるための施策というのは、この1、2、3、4の中でどれが当てはまるのかなっていったら、いまいち弱いかなというのが。

○子育て支援課長 2の(1)がという。

○谷村委員 そうですね。

○子育て支援課長 2の(1)が3に落とし込まれていないという。

○谷村委員 そうですね。

○子育て支援課長 それは、全ての子どもに居場所があることというのは、既存の居場所も含めて、どこかしらに居心地が悪くないと感ぜられる部分があるというところが、今までの議論の経緯だったと思うのです。どこかしらに居心地が悪くなく、また行きたいと思える場所があるように、選択肢ができるということに力点を置きましょうということで、居場所を複層化というか重層化して、市内にたくさんできるようにしていく。

たくさん市内に居場所ができるようにしていくための支援としてあってほしいものが施策提言に落とし込まれているという流れなのですけれども。なので、この全てのものがこの施策提言の1、2、3、4のどれに当たるかというところであるよりかは、全ての子どもに居場所があることは、どちらかというところ、全ての部分に少しずつかかっているというふうに認識しているのですが。

○谷村委員 なるほど。何となく分かったような。

それでいったら、具体的にいくと、(4)の最後の行「子どもの居場所を催す場所の確保について支援をすること」というところで、具体的な文言を。居場所がない、今居場所に困っている子どもに対しては積極的に居場所を確保というのを入れたほうがより

鮮明になるというか、全ての子どもに対するというところの。今現状認識として、どこかしらに居場所があるというふうに。あるという条件であるならば、富田さんがおっしゃるような流れで別に問題はないと思うんですけども、ない場合というのが、ちょっとこの中からは汲み取れないかなとは思って。

今現状、居場所が本当に自分がいたいと思える場所がない子どもというところに対して、市の中で全部かき集めれば、絶対どこかにあるんだっていう前提であれば別に問題ないですけども、それがない場合でいったら、そこは積極的に用意するという文言が必要なかなと。

○水津職務代理 すみません。まず、この4つの施策提言に関しては、安全であるべきということを保証する必要があるということと、今、これからできるか分からないけれども、そのことを広報しなくちゃいけないよというのが2番目に書いてあって、3番目は、それをコーディネートするような中間支援の組織が必要だよということなので、私もここに中間支援があることがもう少し分かりやすい文章のほうがいいかなとは一寸思っているんですけども。

あと、最後の4番目のところが、いわゆる行政施策に対する支援で、今場所がないから、そういうつくりたい人に向かって補助制度の情報を提供するとか、新しい補助を検討するとか、あとは居場所の確保については、文言的には入っていないけれども、今ある既存の施設以外のところの居場所は、子どもの居場所として提供できるような支援をするというつもりで書いているんだけど、それはやっぱりこれだけでは読み取れないということ。だから全ての子どものために4があるということ。

○谷村委員 今水津さんがおっしゃったのは、供給サイドの意見だけで、需要サイドの意見が入っていないんですよ。供給サイドがこういうふうな供給というのは今ずっとおっしゃっていたと思うんですけども、需要サイドというのを確実に把握して、潰していくというか、漏れがないようにしてくるところは、ちょっと読み取りづらいかなどは思うんです。

○水津職務代理 というか、そういう視点では多分書いていないような気がする。

○谷村委員 そうですね。どちらかというと、供給サイドの。

○水津職務代理 これから運営するとか居場所をつくるためにおいての施策提言として書いているので、供給する側の立場がどうなのかということは、提言としては今ここには入っていないと思います。

○谷村委員 一言でも何かそこを足すことによって、需要サイドですか。全体的に居場所、本当に困っているところに確認するというところを入れたほうが良いような気がするのですが。

○子育て支援課長 ちなみに聞いちゃいますけれども、それってどうすればできると思われますか。

○谷村委員 どうすればできる。そこを今すぐ具体的に探すという努力じゃないけれども、それを入れておいたほうが。

ごめんなさい。具体的にどうすればというところは、正直分からないんですが、その探そうという意思は入れたいなど。ここに。

○子育て支援課長 読み取る努力をするというところの意図ですかね。

○谷村委員 そうですね。

○水津職務代理 そうすると、具体的に言うと、リサーチするとかモニタリングをするとかそういう。

○谷村委員 そうですね。モニタリングをする。

○水津職務代理 ことをやっていくというようなことをここに入れたほうが良いということですね。潜在的なもの。

○谷村委員 そこまで具体的なものを入れる必要はなくて、居場所に本当に困っている子ということ視野に入れるという文言が入っていることが。その具体的なやり方というのは今後また試行錯誤していくところだと思うんです。

○水津職務代理 前のところは結構時間を使って話していたと思うんですけども、3番のところはほとんどまだ議論をしていないに近いと思うので、そういう御意見を入れ込んでつくらないといけないかなと思うので、いろいろ御意見出したほうがよかろうかと思いますが。

○村上委員 繰り返しになっちゃう。今水津さんから3番のところ、これが入るとすごくいいことだと思っていて、谷村さんの需要というところで、3番の活動によってその需要がある程度把握できるというか、ということにもなるのかなという。

私なんか、不登校ということは当事者に近いので、ある程度具体的に何をしてほしいというのは、私の中ではあるんですけども、3番のところ、小金井でもいろいろな活動をされている方の意見をお聞きしたりしていると、ある程度共通性があるんで、その支援。まず何が足りないんだよというのをもうちょっとヒアリングして、4番のところ具体的に。

行政として支援してほしいというものがあるので、そこをもうちょっと強く言えないかと。市の補助制度を検討と書いてあるが、今の補助制度では救われていない人がいるということは今事実なので。そうですね。3番でヒアリングして、4番である程度具体

的な提案が打てるようなつながりになっていけばいいのかなと思うのですけれども。

○鈴木隆行委員 僕の認識なんですけれども、この報告書の意味。前にちょっとそういう話が出たと思うんですけれども、それっていうのは、これから何かしようとする人とかに対して、参考になるというか、こういうふうに言われているからというある種の後ろ盾じゃないし、武器みたいな感じになるものだと思うんです。

それから、少し今の話に関連するんですけれども、困っている子ども目線といった場合にも、居場所がないと思っているときに、訴えかけるときに「こういうふうに言われているじゃないか」というふうに訴えかける武器の1つになるのかなというふうに思っているのです、そういう意味では、ここで強い言葉を入れて「市はそういう活動に最大限協力すべきである」みたいなことを載せてしまうとか、あと、言えるかどうか分からないですけれども、学校とかそういうところも市から言えるのであれば協力をするように働きかけるとかっていうような、もうちょっとこれが武器として働けるような文言を入れてはどうかというふうに。

ここに書いてあるんだからちゃんと最大限市は動いてよとか、ここは協力してよというような形の言葉を入れたらいいんじゃないかなというふうに思いますが、いかがでしょうか。

○谷村委員 語尾を「すべき」とか。

○鈴木隆行委員 解釈で逃げられるかもしれないですけれども。

○水津職務代理 例えばこの3の中間支援の役割みたいなのところに、もう少し具体的なこういうことをするみたいなのところに、子育て支援課に何かをしろというんじゃなくて、中間支援団体が、例えば教育委員会とかいろいろなところと協力し合って、子どもの居場所をつくっていかうとするんだよみたいなことが伝わるようなものがあつたらいいかなという感じですかね。

○鈴木隆行委員 そうですね。学校とか教育委員会なんていうのは、言葉を上げてしまってもいいかもしれないです。相手先が、宛名がない場合には、みんな自分のことではないとして、受けてくれない可能性があるのです、ここ、ここ、ここ、ここ。市の中の課までを特定することはないですけれども、「市は」とか「学校は」ぐらいの言い方でもいいかなとは思っていますけれども。

そういうふうに言えば、一般市民としては、市は協力すべきと言われてますよねとか、学校は協力すべきと言われてますよねとかいうように思えるので、強く訴えるこ

とができるかなというふうに思いますが。

○水津職務代理 多分それを、例えばどこかの課の仕事にはできないので、コーディネーターというか中間支援の団体が、まちの中で子どもたちが生活するところで、子どもの居場所を見つけられるようなことをするので、いろいろなところがみんな協力しましょうみたいな感じの、正しい日本語が分からないけれども、そういうニュアンスのことを入れておけば、そこにあることで「いろいろな協力体制をつくるべきだよ」みたいなことが示せるということですよ。

○鈴木隆行委員 少なくとも市として、知らんぷりをしてはいけないよということなんです。せっかくこういうふうに言っているので、これが有名無実化しないように、少なくとも議論の俎上には乗せてくださいよというふうなことを言いたいなという。

○谷村委員 水津さんがおっしゃった市ができないっていう。

○水津職務代理 1つの課が、例えば子育て支援課が「じゃあ教育委員会と協力してください」とか何とかしてくださいみたいな感じのことを書き込むことがすごく難しいので。

○谷村委員 コーディネーターとか何とかって外部に発注したとしても、その責任は市だと思う。

○水津職務代理 そりゃそうですね。

○谷村委員 そうすると、主語としては市で何の問題もないかなと思うんです。誰がやるかやんないかではなくて、やったことについての保証は、発注側の市が全て負うことなので、発注したから知りませんとは言わないんで、あくまで主体としては市になるはずなので、そこは主語として「市」と入れても問題はないのかなと。ちゃんと発注して、ちゃんとそれができているかどうかのウオッチをするだけなので。

逆に言うと、全ては主語「市」なんですよ。

○鈴木隆行委員 市から言って、どれぐらい学校側を動かせるのかっていうところにもよるなと思うんですけれども。

○谷村委員 学校もあくまで市なんですよ。

○鈴木隆行委員 多分そうなんだと思いたいですけれども。

○谷村委員 そういうところでの。

○子育て支援課長 学校としては、必ずしもイコールではないですかね。部分にもよると思いますけれども、設備とか施設とかについては市ですけれども、運営は必ずしも市ではない。

○鈴木隆行委員 場所としては、学校のリソースって結構重要なリソースだと思うんですけれども、校庭にしても体育館にしても教室にしても。例えばそういうものを活用したいと思ったと



きに、活用できないという場面では、多分学校独自の判断。校長の判断になってしまう。市からそれを言えるかという、言えないのであれば、ここで学校がそれに耳を傾けるべきだと言っておくのは、意味があるかなというふうには思いますけれども。

○萬羽部会長　　ちょっと全てというところまで書けるかどうかは分からないんですけども、先ほどから上がっているように、確かに中間支援の役割をもう少し具体的に書いて、市とか学校とかいろいろなところをつなぐというところをどこかにも書いたような気はしていたけれども、書いていないような気もするので、ここに入れるというのは確かに必要かもしれないなと思いました。

○水津職務代理　行政ももちろん責任があるんだけど、子どもの居場所をつくるということに関しては、それぞれの市民みんなが全部ここに向かわなければいけないことで、皆さんの理解と皆さんの協力と、あとそこに行政のバックアップというのがあってなので、市に一方的に何かをやってもらうことだけが子どもの居場所づくりではないから、そこを支えることを市が中心に思っしてほしいとか、推進してほしいというふうに、多分捉えたほうがいいのかなというふうに思うので、例えばここで中間支援をする団体が、子どもの居場所を地域でつくる時に、学校も協力してほしいし、地域の町会とかいろいろなところともつながって、居場所ができるみたいなことを構図としてつくれるようなものがここにあるというふうに。そのことを推進してほしいとか、しなきゃいけないみたいな感じのニュアンスだったら、意味など通じるしいかなと思うんだけど、この文章がそんなに簡単には……。

○鈴木隆行委員　市にやってほしいというよりは、市にちゃんと協力してほしいということですね。

○水津職務代理　そうですね。

○鈴木隆行委員　とにかく、ほったらかさないでほしいというか。

○萬羽部会長　　おっしゃることすごく伝わってきたので。

○水津職務代理　だから、ここに入れたいものを、皆さんの御意見を多分言い出した中で、まだちょっと難しいというか。

○萬羽部会長　　今のに関連して、中間支援というものにどういうことを求めているかでもいいですし、もちろんほかのところの内容でもよいかと思しますので、何かほかにございましたら、お願いします。

　　お願いします。ほかのことでも。

○古源委員　　今、富田課長のほうから、既存の居場所も含めて選択肢を増やすというお話を頂いた

のですけれども、現在既存の子ども対策というのはあまり、もうちょっと推進していただけたらいいかなというのがあると思うのですね。

そういうことも含めて、提言の中に、既存の居場所に対する要望というのも市民の中にあると思いますので、そういったこととか盛り込んで検討するとか、充実してほしいとか、そういったような意味合いのことがあったらいいかなと思います。

○子育て支援課長 それを（４）に例えば付け加えるとかですかね。

○古源委員 そうですかね。

もう1ついいですか。1番に戻っちゃうのですけれども、いいですか。「子どもの居場所とは」という概念なんですけれども、繰り返さずと見て、読んでいたんですけれども、客観的に自分が見られなくなっているという部分があるんですが、訴えるものが弱い感じがするんです。理念とか概念として。

この2つ目の段落のところで「どこにも行き場がない子どもがいないように」というのが、これがメインなわけですよ。そのために様々な居場所を用意しましょう、しないといけないというのが小金井市の居場所の考え方だと思うんですけれども、その前に全ての居場所が常時、あらゆる子どもを受け入れ可能である必要がありませんという、このエクスキューズが必要なのかって思うんです。

そうではなくって、どういう居場所が必要だと小金井市が思っていますよという部分ももうちょっと言えたらいいのかなと思って。例えば子どもの側から考えたら、例えば自分が自然体でいられるとか、自分が求めるものがあると思うんです。そういったことの記述があったほうが。ちょっとこれネガティブな感じがして、何となく少し表現を工夫したいなと思います。

○水津職務代理 今のお話だと、例えば「全ての子どもの居場所が、常時、あらゆる年代の子どもを受け入れ可能である必要はありませんが」の後に、どこにも行き場のない子どもがいないようにするためにはもっと様々な場所が必要ですか、ここの文章が厚くなればもう少し何とかできますか。

○古源委員 条件設定みたいなこの書き方がどうなのかなと思って。そうすると、これ年代だけじゃなくなってきましたよね。何かこういう居場所というのに制限が出ちゃうような書き方みたいな気がするんです。

現実はそのなんです。いろいろな目的のいろいろな場所ができるから、それはそれでいいんだけど、それを目的としているから、あえてここで年代全部を受け入れな

くてもいいんですよって言う必要がどこにあるのかなって思ったということです。

○水津職務代理 多分これは話をしたときに、1個の場所が全てを網羅するよりも、いろいろな種類のものがあって、そのことのほうが大事だっていうことが言いたかったので多分こういう文章表現になったのですよね。そこがちょっと、例えば読むときに、そっちのインパクトが強すぎて誤解を与えるのであれば、どうしたらいいのかなという。

○古源委員 言いたいのはいろいろな居場所を作ろうということですよ。

○水津職務代理 そうそう。だからそれが毎日開いていなくても、いろいろな、そこにしかできない場所であっても、子どもにとっては大事な居場所であれば、そういうことがたくさんあることが必要ですよという趣旨の文章なんだけれども、最初の前文があることによって、そういうふうな誤解を受けるのかしら。

○古源委員 私がそう思っただけかもしれないのだけれども、多分否定語だからより一層そういうふうに見えちゃうので、多分この意味はこのままだとしても、否定語じゃなくて、いろいろな場所にいろいろな年代のいろいろなときにいろいろな年代のみたいな。受け入れる場所があって、どこにでも行き場のない子どもがいないようにみたいな感じ。否定語じゃないほうがもしかしたらいいのかなと今のお話を聞いて思ったりしていたんですが、すみません。

今すぐこれも浮かばないんですが、否定語だからより一層そういう気がしちゃうのかなというのは、確かに私も何度か読んでいるときに引っかかってはいたので。

○水津職務代理 難しい。

○古源委員 「必要ありませんが」じゃなくて「そういう場所があることによって、いろいろな人を受け入れることができますよ」という書き方にしたほうがいいのかもしいかなと思います。

○鈴木隆行委員 おおよそ今おっしゃっていたとおりでいいんじゃないかと思います。多様な居場所を整理して、あらゆる子どもにとってどこかしらに居場所を見つけられるようにするっていう趣旨ですよ。

○古源委員 はい、そうです。

○鈴木隆行委員 1つの場所でカバーするということを例示的に言わなくても、誰も取りこぼさないという趣旨だったと思うので、それを前面に押し出せばいいということなんですよ。

○水津職務代理 あえてこれがなくても通じるということだよ。

○鈴木隆行委員 言い方の問題かなと思います。

○古源委員　　ちょっと置き換える。言葉を置き換える。

○子育て支援課長　この話が出たときって、居場所のハードルを下げるっていう趣旨だったと思うんです。ぱっと見たときに「こんなにすごいいろいろなことをやんなきゃ、居場所って駄目なんだ」って思わせないための、気軽に「じゃあこれならできるかもしれないからやってみよう」って思ってもらうためにも、居場所の大事に思っほしい部分は伝えるけれども、ハードルを上げすぎないっていう趣旨の1つとして出てきた言葉だったかなと思うので、その辺りを踏まえて、何かよい御提案があればお願いします。

○萬羽部会長　　古源委員、お願いします。

○古源委員　　富田課長のお話の中で思い出したんですけれども、この部分って、子どもの居場所の考え方の部分で、応援者じゃなくて、利用する子どもがどういう居場所を求め、あったらいいかというほうかなと思うんですね。ハードルが上がっちゃう、いろいろなことをもう全部ここでできなきゃいけないというふうになっちゃう。全ての場所に、全てのことが得られるというわけじゃないよということだと思うんですけれども、それこそ言い方なんですけど、そうじゃないよということよりも、鈴木委員がおっしゃってくださったみたいに、多様な居場所を用意することでみんなに居場所があるよという言い方のほうがいいかなという気はします。

○萬羽部会長　　この部分は引き続きよい言葉があったら言っていただくということで、関連してでも結構ですし、そのほかでもいいのでまた何かありましたらお願いします。

○鈴木恭子委員　2の大切な視点の(4)、実現可能で、可能であることという文言なんですけれども、この文章はさらに膨らませていただいて、内容も深くなっているとは思っていますが、この箇所は、居場所自体、運営する団体、運営する人がマンパワーだったり、持続していけるように行政からの支援をもらえたらいいですけれども、そこには限度があると思うので、相談して共同してやっていけたらいいなと個人的には考えているんですが、この最後の文章のところで「地域社会の理解や協力を得ながら、市民みんなの協働により、実現し持続していくことが重要です」と。もちろんそのとおりなんですけれども、実際居場所を作っている団体さんだったり、これからやろうと思っている人たちはみんな協力してやっている。

ただ、持続可能にしていくためには、多少の支援及び相談相手が必要。先ほどから皆さんが言っていた施策提言の3と4にもつながるところなんですけれども、ここに行政だったり学校だったりの相談窓口だったり、今支援の体制があるということが明記され

ているといいなと感じたので、ここの「市民みんなの協働により」という前のところに、市民だけではなくて、例えば自治体。学校、教育機関と入れるべきかどうか分からないんですけども、「自治体と市民みんなの協働により、実現し持続していくことが重要です」という記載のほうが、より、市民だけではなくて、自治体も一緒に実現可能に向けて動いているということが伝わりやすいのかなと。

○萬羽部会長     ありがとうございます。

○村上委員     今の部分に関連してなんですけれども、今お話しあったとおり、この2の4のところ  
が3の4のところにつながっていくところなので、4の前段があるのかなというのは、  
そもそも「変わるニーズに対応して」みたいなというのは、分かるんですが、一般的な  
ことなんで、世の中変化してそれに対応するというのはわざわざ言う必要があるのかな  
と。それよりも、主体となって自治体。自治体以外にもあるんですけども、関係者が  
協働して、持続に向けて支援していくみたいなニュアンスのほうがいいのかなという。

あとは、関係者ということで言うと、これは後のほうで入れてもいいのかもしれない  
ですけども、企業とかも今社会貢献ということではいろいろやっているんで、そういう  
のも含めてなんです、そこは入れる入れないはあるんですが、一番言いたいのは、さ  
っき鈴木さんが言われたみたいに、主体は自治体だと思うんです。学校もあるんですけ  
れども、私のイメージだと学校は学校でいろいろ少しでもいろいろな形で協力してい  
たきたいというのがあるんですが、ちょっと別世界なんで。

広島の事例で何か学校の中でフリースクールつくったと。そういうところまで想定で  
きるんだったらいいんですけども、一般的に言うと、学校は学校の中でカウンセラーだ、  
通級学級だとか、そういうのも含めてやられているんで、そこは頑張ってほしいですけ  
れども、我々が関わっていくところって市が主体。主体的に市が支援するみたいな文言  
を、施策のところでもいいと思うんですけども、そこを入れていきたいなというふう  
に思いますし、具体的に言うと、家庭があって、学校があって、何かしら一般の児童た  
ちは公共の居場所があって、そこでそれだけで困ってしまっている人たちを支援する  
というニュアンスで言うと、何に困っているかという、運営側もいろいろな支援がない。  
家賃支援なのか、建物借りられるのかとか、そういう支援がないからすごく運営側も厳  
しいと言っているでしょうし、困っていく人も結構経済的な負担が大きいですね。

学校とかは今まで既存のところでは居場所をつくれる子どもはいいと思うのですけれど  
も、図らずもそこが自分の居場所になっていない子どもにとっては、やむを得ず行かな

きやいけないんで。そこを支援していくというのが行政の使命だと思うので。学校と並列じゃなくて、一番の主体は市だと思います。それを文言で入れていきたいなと思いました。

○水津職務代理 子どもの居場所をつくるに当たって、「どこ」とか1個の、行政が主というよりは、私は市民と行政の協働だと思っているので、そうしたときにすごく重要になるのは、いわゆる3番の中間支援的な組織だと思うんです。ここを市がもっとバックアップするか、協力するとかってというようなことにならないと。

例えばこういうことをやりたいと思っている人がいて、それをやりたいのにこの地域でここに空き家があるとか、ここを借りれるようなことができないかなとかっていうことを行政と相談して話をするとか、そういうことを具体的に進めていくのってどこかの何とか課がやることじゃないと思うんですよ。行政っていろいろなものが関わっている。それを中間支援の人が、じゃあこれは公園課に行って相談しようとか、これはこちらに行って話してみようとかってというような形で推進していけると、細かい子どもの居場所ができるというイメージが私の中ですごくあるんですけども。

そのために必要なそれぞれの、一番最初に谷村さんがおっしゃったように、いろいろな子どもの、今居場所のない子のことを知るとか、そこに対する働きかけみたいなものも、当然そういう細かい単位でもやり取りでできることがあると思うし、そのところがすごく充実すれば、みんなが動きやすくなるような気がするんですよ。

実際に今活動している人たちも、今これでやっているけれども、次こっちでやりたいときに、何か相談したりとか、こことここで手を組みたいというのができたら、それを支援するのが中間支援だと思うので、この人が芋掘り体験やりたいと思っているんだけれども、農家の人を紹介するとか、ここに行ければ分かるんじゃないとか、そういうような具体的な細かい話ができるのが、中間支援になるべき組織があれば、すごく。行政が今やっていることだけじゃないことに広がると思うので、そのところを支援をしてほしいんですよ。一緒に協働するという意味で。支援の形がお金とか、それは分かりませんけれども。

それがあって初めてこういう。例えば予算が、都・国がこういう居場所ありましたよという情報があれば、そこから聞いて、その人たちに情報が行けばできる可能性が増えるとか、そういうような構図を私は勝手に考えているので、すごく重要なのは、中間支援になるべきところの充実とか、そこに対するまち全体の人たちの思いとか、そういう

ものが分かるような文章だったらいいなというふうには思っているのですが、3のところも広がったらいいかなと。

○村上委員　よく分かるし、そのとおりだと思うのですが、それもすごく重要だと思うのですが、具体的に解決を目指していくとなると、これは小金井市だけの問題じゃないですが、行政がもっとここで動かないと、なかなか具体的な解決に結びつかないんじゃないかと。市民のネットワークで声上げてって。もちろんいろいろな人が協力していく。企業なんかも今そこに絡んできている傾向があるんでしょうけれども、だから、両方。行政に対してはそこを強く求めていきたいなと。

○子育て支援課長　確認なんですけれども、皆さんに御協力いただいた「のびゆくこどもプラン 小金井」でも、地域における子どもの居場所づくりの推進の方向性で「安全で安心な居場所づくりを、家庭・地域・教育関係者・市が協働して進める必要があります、これら関係者の連携強化の仕組みづくりに取り組みます」って書いてあります。

その上で「子どもの活動場所の拡大に取り組みます」っていう中に幾つか項目のあるうちの1つが「地域での子どもの居場所の拡大、NPO、民間子ども活動支援プログラム等、地域の多様な社会資源の積極的な活用を検討」という項目も明記しています。

この会議を立ち上げる経過としては、ここの部分の御議論を頂いたときに、ぱくっとしたものは御意見が出てきました。前の計画から引き継いだものもあるし、皆さんの意見で変更した部分、修正した部分もある。ただ、計画全体をつくっていく中の一部分になってしまったけれども、ここはもうちょっと話を深めたいねという趣旨があってこの会議に至っています。

なので、市は関わりませんという前提でもないですし、市や教育関係者で集まる学校とかになってくると思うのですが、そこと協働する必要がないという認識ではなくて、あるという認識というのが、まず前提にあります。その上で、民間の人たちも含めて地域づくりとして多様な居場所をつくっていくために、あまりにも漠然としているから、ここをきちんと話し合おうというところで始まっているのがこの会議だと思うのです。

ですよね。去年の6月からこの会議をやりましょうねっていうところになってきて。なので、前提として、市民の人だけがやればよくって、市は遠くで見守りますとかっていうことではないです。やらなきゃいけない、取り組まなきゃいけないっていう認識があってこういう会議を持っているので。ただ、市民の方たちにも取り組んでもらうに当

たって、何らか理念のようなものであるとか、踏まえていくものというのをきちんとしましょうよというところでまとめている。

○水津職務代理 なので、大切な視点というのは、そういう意味での居場所に関する大切な視点を話してきたと思うので、これが施策のところになると、いろいろ出てきたところがあると思うので、そこの施策の話をもっとしていない中での提案でということだったから、いろいろと思いが難しかったなどは思うのですけれども、最初の趣旨としては全くそのとおりで、居場所をみんなでどうやっていくのか具体的な話をしましょう、ビジョンをつくりましょうということがこのスタートだったので。スタートみたいな感じかな。

○北脇委員 市が協働という認識で動いてくださって、今回これを決めるというのは分かっているのですが、(3)のところ、「つながり合うことができるような支援を行うこと」を、私も支援側でやっているのを感じるのは、課がまたがってしまうんですね。例えば、支援してもらいたい人が相談するところ。支援したい人が相談するところ。あと、実行したい中身が何課になったりとかそういうのがあって、どうしても横のつながりというのを考えてしまうんですね。

支援のほうでは横のつながりがとても重要なので、「つながり合うことができるような支援を行うこと」と書いてあるんですが、あえて「横のつながりができるような支援を行うこと」みたいな。横という単語を入れていただくことはできないのかなと思いました。その中に課の協働とか人との協働とか、そういう意味合いも含まれると、より明確にと思いました。

○谷村委員 ちょっと村上さんのところに戻っていいですか。

○萬羽部会長 どうぞ、お願いします。

○谷村委員 多分ちょっとふわっとしたままかなと思って、(4)の村上さんの最後の「市民みんなの協働により」というところが、「市が」というところでしんがりを持ったほうがいいんじゃないかと言ったのは、僕は個人的に村上さんに同意というか、「市民みんなの協働により」というのを書いたところで、市民がこれに従う必要があるのかっていう根本的なところで、この文章で市民を縛る権利もなければ、多分知らねーよっていう権利もあって、あくまでしんがりとしては行政が持つべきであって、「市民みんなの協働により」というこの文言を削除したほうが分かりやすいのかなと。

ここで急に市民が巻き込まれて「協働により」と書かれ、ふわっといきなり「おっ



と、出てきたぞ」というよりは、最初からこんなのないほうが分かりやすく、ただ、主体が全部今のところ市で来ているのに、何か急に市民が巻き込まれたぞって。

水津さんがおっしゃるように、みんなでやることは必要だとは思いますが、これ自体に何ら拘束力もないはずだし、従わされるものでもないのかなど。別に悪い意味で言っているわけではなくて、「市民はこうあるべき」とこんなところで正直言ったところで、市民の人たち「駄目だ、谷村」って言うところもあるかなどは思う。あえて入れなくてもいいかなとは。

○萬羽部会長 一方であえて入れた理由としては、「市が」「市が」「市が」というのをここであまり強調しすぎちゃうと、逆に今後のこの居場所づくりは、市が中心というか、市は中心かもしれないんですけど、ほかの人の協働という視点が。ここにはやはりどこかには強調したほうがいいんじゃないかという考え方の下、あえて入れたところがあって、言葉としては確かにもう少し変えたほうがいいのかもしれないんですが、先ほど水津委員がおっしゃっていたような、みんなで協働していくというところはどこかで書かないと、それが抜け落ちた今後の子どもの居場所づくりになってしまうのは、反対に違うかなという気はしています。

確かに突然市民が入ってくるんですけど、でもどこかで入れないと、反対にそれがごっそり抜け落ちたまま、みんなでという視点がなくなってしまうんじゃないかなという心配の下、あえてここで入れてしまっているというところなので、確かにもうちょっといい流れになるといいのですが、考え方としては、どこかにそれはきちんと明記する必要はあるのかなという強い気持ちは持っています。

「市が」っておっしゃる気持ちも分かるんですけど、反対に協働でみんながつくっていくものというところは、どこかには入れたいなという。

○北脇委員 私も同じで、「みんなで」っていうのは文言はどこかには必ず入れたほうがいいと思うんです。ここがよくないというんでしたら、ほかに言葉を変えて入れる。

何でかという、みんなで支えていくんだっていう気持ちが入っていないと、結局この3番のコーディネーターする人だけが情報を分かっている、支援者のほうも情報が抜けて落ちてしまう。いやいや、市がやっているから大丈夫だよ。私たちはやらなくてもいいよという気持ちになってしまうと、結局全ての方が、居場所で解決するわけではなくて、うちが駄目でもほかがあるし、あそこもあるし、ここもあるよっていうそういうネットワークで結局どこかで引っかかる子というのはいるじゃないですか。

その情報を皆さんで共有するという意味でも、横の手をつないでというか、横のつながりみたいな形で、「みんなで」というそういう意味の協働なのかなと思います。

○谷村委員 おっしゃる意味はすごい分かるんですが、分かるんですが。この部会で市民はみんな協働すべきだって言ったところであって。それはいいとは思いますが。

○水津職務代理 すべきだから入れたんじゃないで、持続可能にするためにはみんなで協働しなくちゃいけないよという文言なんです。

○谷村委員 いけないよって言っちゃ駄目なんだと思います。したいなっていう、何かそういう。何だろうな。しなきゃいけないよじゃ多分。

○萬羽部会長 鈴木隆行委員、お願いします。

○鈴木隆行委員 もしかして引かかっているのは、市民みんなって言うから、全員対象になってしまっているんじゃないかってことですか。何かやるのに対して、そこから市の人も参加するし、市民も参加するし、学校関係者もいろいろな人が参加して、何かをするということはいいんだけど、市民みんな協力しろって言ったら、あまねく市民全員協力しなければいけないように捉えてしまうということなんじゃないかなという気がするんですけど。

○谷村委員 根本的に何だろう。ごめんなさい。サラリーマンなのかもしれないですけども、市民はこの文言によって契約をするいわれは一切ないんだと思うんです。別に、こういうのを目指したいぐらいでいいとは思いますが、それで持続していくこと。

○鈴木隆行委員 市民みんなと言っちゃうから自分も関係するんであって、自分とは関係ない市民がやっていることに対しては、別に反対ではないんですよ。

○谷村委員 自分がやることも反対ではないですけども、反対する市民に対して。

○鈴木隆行委員 市民が、こういうことに関わっていることに対して、支援をしましょう、みんなで何かやりましょうっていうものなので、そこは、市民はあってもいいと思うし、話広げちゃって、僕は相手先は市だけじゃなくてもいいと思うんですよ。全部相手先として言ってしまったほうが。1つに絞ったことによって効力が強まるとかっていう単位のものじゃないと思うので、いろいろもう含めてしまって、「ほら、ここにあなた、書いてあるじゃないか」っていうぐらいのものにしてしまったほうがいいと思うし、団体でなければ、市民個人であれば、別にこれによって自分もやれと言われている気にはならないんじゃないか。市民みんながって書かれていると、自分も該当するかなっていうふうにする可能性はありますけれども、市民とか、市が市民と協力して、もしくは学校関係者

と協力して、居場所を模索して運営して実施してっていうような捉え方だとしたら、それはよいのかなというふうに個人的には思いますけれども。

○萬羽部会長　あと、先ほど私も言葉があれだったのかもしれないですけど、「すべき」とか「しないといけない」という意味じゃなくて、みんなが協働していくことによって、それが持続可能につながるのではないかっていう意味合いなので、しなきゃいけないよという意味じゃなくて、協働をしていくことで続いていくよっていうニュアンスのつもりだったんですけども、多分その言葉が足りないんだと思うんですが、意味としては、すみません。そういう意味です。

「しなければならぬ」とか「すべき」ということを言いたいんじゃないで、協働していけば誰かができなくなったことを、その次の誰かがやってというふうにしていくことにつながるよって書きたかったんですけども、多分言葉が足りないだと思います。

○水津職務代理　すみません。すごい例えですけども、学校の中で子どもの居場所をやろうと思っていたことが、今学校が使えないということになったときに、ほかの場所でやろう。じゃあ、それをみんなで、行政とか学校とか関係なくて、市民の力でこの場所つくろうみたいなのは、実際にはもしかしたら行政がやっているものよりいっぱいあるんですよ。だから、そういう意味でのみんなの協働っていうことだと思んですけども、それを例えば行政とか学校とかっていうことに逆に縛ってしまうことによって、そこでできないものはできないことになっちゃうのもちょっと困るなというふうに私は思って、持続可能で、実現可能にするために、どうしてもそこに協力はもちろんしてもらわなきゃいけないし、一緒にやるべきことなんだけれども、それ以上に、まちの中の力っていうのは、子どもの居場所っていうのは本当に必要な分野だと思うので、そこが分かるような文章にしたかったっていうのは、考え方としてはあるんですけども。先生がおっしゃるようなことなんですよ。

○萬羽部会長　なのでですけども、多分言葉がちょっとあれなのかもしれないので、もっとよい表現があれば。

○鈴木恭子委員　皆さんがおっしゃっていることそれぞれよく分かるんですけども、市民を巻き込んで、みんなで協力してやっていこうということであれば、ここの「地域社会の理解や協力を得ながら」というところで網羅しているんじゃないかなとは個人的には思いました。

ここは確かのもと「当事者の関わりを大切に」という文言があって、当事者つ

て誰なのっていう話になったと思うんですけども、それが子どもなのか運営団体なのか、行政なのかみたいな話があつて。

まず地域社会の理解協力はもちろん必要。さらには、当事者。それが運営団体なのか子どもなのか分からない。それと行政が協働していきますとすれば、登場人物全部出ているかなって思ったんですけども、地域社会、行政。運営団体という言い方が、私個人的にじっくりこないんですけども、居場所をやろうと思った人、やっている人。

○萬羽部会長　そうですね。その辺の縛り方が難しいなって思って、縛るのをやめちゃった経緯があるんですけども。

○鈴木恭子委員　その辺は分かります。

○萬羽部会長　縛ると、先ほどの議論と同じで、縛ることによっていいこともあるけれども、抜けちゃうから関係ないってなっちゃうのも。なので、ちょっと違うなと思って。でもおっしゃりたいこと分かります。

なので、団体とかって表現するよりは居場所を一緒につくっているというか、もう少し広い言葉のほうがいいのかなどは思ったりはするんですけども。

○鈴木恭子委員　「地域社会の理解や協力を得ながら」という言葉で、私も何となく「市民みんなの協働により」というのは、絶対子どもの居場所は絶対に必要なんだって市民全員が思っていないきゃいけないですよみたいな、そういう地域にしていきたいと思いますな強制力を感じなくもないかなっていう気はします。人によってはそう思ってしまうかもっていうところがあります。

○子育て支援課長　子育て支援課的には思っています。

○鈴木恭子委員　そうですね。

○萬羽部会長　そうなんですよね。なので、理解や協力ではまだ一步足りなくて、あえての協働ってちょっと強い感じにしたかった気持ちもある。

○鈴木恭子委員　分かります。実際現在、当事者意識を持っている人たちが、負担を抱えて、やり過ぎてオーバーワークというところもあるから、それをみんなが少しずつ、頑張ってくれているんだなって、実際アクションを起こさなくても理解してくれていたら、やっている側も気持ち的にはいいというところもあったりするんですけども、そういうふわっとした感じの文章にするのは難しいですか。

○萬羽部会長　それでこういう表現になっちゃったんですけども、もう少し考え練られるといいですね。どっちがよいですか。

○谷村委員　　ざっと言うと、僕と鈴木さん、NPOの保育園に行っているんですけども、「市民みんなの協働により」って、例えばNPO、本当に善意でやっているわけじゃないですか。そういうところからしてみたら、こういう余計な文言とかと一緒にやっています感出されるのがいい迷惑だなんていうふうに。そんな浅いところでやっていないですよというのがあるかなと。代弁すると。

○萬羽部会長　　でも一方で、ここに書かないと延々にこれが続くんじゃないかという懸念の下、まずはここからっていう。

○谷村委員　　そこまで。

○萬羽部会長　　おっしゃることは分かります。

○谷村委員　　重要なのか分からない。

○萬羽部会長　　表現の仕方ですね。

○児童青少年係長　　1つ実現可能で、持続可能であることと、それを横断的に説明する文章になっていないかもしれないんですけども、今皆さんの意見をお伺いして、例えばですが、必要な居場所が持続できるよう、支援する人・関わっている人が孤立させず協働することが必要ですとか、様々な関係者、もしくはステークホルダーとか、そういったところで理解する人が、手をつなぐ人が増えるというようなことが持続していく上で必要だよというのは文章的にはどうかなと思いました。

　　以上です。

○萬羽部会長　　ありがとうございます。

○水津職務代理　　あと、どうか分からないけれども、例えば市民と行政とか入れちゃうとかすると、ふわとした市民に押しつけた感がなくなるかなという気もしなくもないけれども。

○鈴木隆行委員　　すみません。今の文言の意図をもう1回確認したいんですけども、「市民みんなの協働により」と書くことによって、既にやっている、運営している市民が自分たちだけではないと思えるようにというような意図があって、持続可能なために、ほかの人もどんどん協力をするような方向に話をもっていくために入れているということでしょうか。

　　そうだとすると、僕は谷村さんの意見に近くて、市民が縛られているような感じを受けます。そうだとすると。最初に立ち上げた人はやりたくてやっているんだろうと言葉は悪いんですけども、ある程度志を持ってやってくださっているんで、それが負担になっているとかそういう事情はあるものの、だから、みんな協力しないと駄目だよというような、ここで言われても困る。

しかも、そういうふうにするからには、先にもっと旗振ってやるべきなのは市じゃないかとそこは思うので、書くにしても順番が違うかなという感じはします。

○北脇委員 例え支援の場所を開いたとして、想像できるのが、例えば公園で何かの子ども居場所イベントをやったときに、まず支援する方がイベントを用意しますよね。子どもたちがたくさん来ますよね。そうすると、自転車がいっぱい止まっているんですよ。その自転車に対して、子どもなので、ちゃんとルールどおりに止めていただきたい。

こっちもそういう指導をするんですけども、危ない運転をして、子どもがこんなところにいっぱい集まって危ないじゃないかっていう近所の方とか周りの方がいて、あとは、子どもの声がうるさい。何でここに子どもをいっぱい集めるんだという方もいらっしやるんですね。

そうなったときに、周りの方にも協力いただきたいというか、子どもの居場所というものは大事なんだよ。だから、そういったことを温かい目で見てもらいたい。みんなで巻き込んでっていうのを文章に組み込みたいかなっていうのがあるんですね。

そうなったときには「みんなの」とか、地域社会の理解や協力のここにもかかってくるんでしょけれども、やりたい人だけ、集まりたい子どもたちだけの問題ではないなっていう状況に落とし込みたい。

○鈴木隆行委員 今おっしゃったようなシチュエーションというのは「地域社会の理解や協力を得ながら」だと思うんです。先ほど言っていたのは、運営者がどんどん変わっていくようなイメージだと思うんです。どんどん年を重ねていって、体力的にきつくなったときに、ちゃんと次世代も回していくような、そういうイメージなのかなと思ったんですけども、それをここで義務じゃないですが、言っちゃうかな。

もしそうだとすると、その前に市としてできることをもっと言わないといけないんじゃないかなと市民として思いますし、もちろん先ほどの自転車の話とか、うるさいとかそういう話は協力を得ながらというか、地域の理解を得ながら進めるという部類の話だと思いますので、その前のところで押さえられているんじゃないかなという感じはします。

○萬羽部会長 「市民みんな」という言葉がちょっと強いというか、意図せず違うように取られてしまう可能性も確かにあるなと思ったので、ここをもう少し考えたいと思うのですが、予定していた時間まであと10分少しぐらいになってしまったので、一応今回で話し合っ、本体会議に出して、次はもうあるか分からないという前提だったわけですよ。な

ので、できればこれは言わなくてはそのところは、今できるだけたくさん言っていたいで、一旦それで少し整理したいなと思っているので、もし御意見あればできるだけ残りの時間で。

○鈴木隆行委員 簡単なこと。

○萬羽部会長 はい、お願いします。

○鈴木隆行委員 すごい単純なことなんですけれども、3番の施策提言のところ。1、2、3と「何かであること」と言っているんで、「こと」にしてほしいんですね。

○萬羽部会長 私もちよっと思っていました。

○鈴木隆行委員 というのが1つと、前も多分言ったんですけれども、2の(3)の「子どもの意見を大切にすること」というのが、居場所の話をしているのに、子どもを大切にしましょうみたいになっちゃっているんで、居場所目線にしたいなと思います。2の最後に居場所って書いてありますけれども、居場所や機会って書いてあるんで、機会を提供するような居場所をとかって、あくまでも居場所に対する提言という文章にしたいなっていうふうに。体裁の問題なんですけれども、その2点だけお願いします。

○萬羽部会長 ありがとうございます。3番のほう(1)から「こと」がそろっていないのと、あと(2)も改めて見ていたら、(2)だけ「広報に協力すること」って随分サポート側にこれだけ主語が終わっているなって感じで、ほかの足並みが出ているような気が私もしていたので、その辺も含めて。

○鈴木隆行委員 そこに関して言いますと、3番はどういう順番で書くかというのを考えたほうがいいかなと。

○萬羽部会長 なるほど。

○鈴木隆行委員 何が大事で、1番が一番大枠のところなのでいいとして、次に何を書く。居場所を整理するとしたら、もう既にある居場所と仮定。どういうステージのことに対して言っているのかというのを、骨組みをつくったらいいのかなというふうに。

あまり言うと、ちゃぶ台返しみたいになっちゃうんで、事前に言うのをためらってしまった。

○萬羽部会長 すみません。ありがとうございます。

○水津職務代理 次の子育て会議に、途中までのところで、施策提言のところだけがちょっと時間が足りていないので。

○子育て支援課長 もう1回やりますか。

- 水津職務代理 子育て会議で途中まで報告して、だって直さないでしよう。部会としての報告として、ちょっとこれ私たちがまとめてというのは厳しいかなと思うんですよ。最終報告が8月の会議じゃ駄目なんですよ。
- 子育て支援課長 いいですけども、最終報告が8月の会議だと、8月の会議で。
- 水津職務代理 意見が出たときに。
- 子育て支援課長 バックする場所がなくなっちゃうなって。
- 水津職務代理 それは、例えば次年度。駄目なのか。
- 子育て支援課長 メンバーそこで変わっちゃうけれども、それでもよければ。
- 水津職務代理 継続審議。
- 萬羽部会長 審議は続けるけれども、1回やっぱり出すことは出すっていうことですね。7月の会議でこれを1回出さなきゃいけないのは。
- 子育て支援課長 7月の会議で1回出さないと、ここまでの部分についても今まで出てもないので、子育て会議のメンバー半分以上いるから、大体はいいと言えればあれですけども。
- 萬羽部会長 ここまでの状況ですってことで。
- 子育て支援課長 2番まで出しますか。3番は検討中にしてもう1回やりませんか。
- 萬羽部会長 全然出さないってことですか。
- 水津職務代理 2番までは出しましょうよ。
- 萬羽部会長 3番は。それか途中でいいかなと思ったんですが。
- 水津職務代理 途中まで、ここまで話していますで出して、本体からも意見をもらって、最後修正。
- 子育て支援課長 3番が、今日の意見を踏まえて修正したものは、次の子ども・子育て会議の本体には間に合いません。
- 水津職務代理 そうだね。
- 子育て支援課長 日程的に、と思います。
- 水津職務代理 だから修正しないものなら出せるけれども、今の話が全然意味がなくなっちゃうので、出すとしたら2まででしょう。2だってちょっと厳しい。
- 子育て支援課長 そうですね。今日のお話を聞いて、補足の意見とかを例えば数日で頂いて、それを反映したものを相談して皆さんにバックしていると、もうちょっと。
- 水津職務代理 1週間しかない。
- 子育て支援課長 ニ、三日、ニ、三日、ニ、三日ぐらいのスパンで皆さんに御協力いただかないと、3番の修正したものは本体会議には出せないかもしれない。



- 萬羽部会長　でも逆にそれ出さないと、8月に突然出すことになっちゃいますよね。それもそれで、大丈夫なのかなと思うのですけれども、どちらがいいですか。
- 水津職務代理　理想は7月に出して、本体会議の御意見を伺って、8月にちゃんとしたものを出すということですよ。
- 子育て支援課長　本来はそういう。
- 水津職務代理　そうしなきゃいけないものなんだよね。だからやっぱり2までの修正で、これもだから経過報告で出して、もともと予定してあったところで話して8月に出して、何かあったらそれは。
- 萬羽部会長　3の提言が8月で初めて出して何か。
- 水津職務代理　だから7月で経過報告で出して。
- 子育て支援課長　今日がもう28日なので、次回の子ども・子育て会議の本体会議が、今のところ7月9日を取っているのですが、本来であれば1週間ぐらい前に資料を送付するところなんです。ただそれが難しければ、調整して最悪7月5日とか6日とかにメールとかで送って、事前に見ていただける期間を数日取って9日に挑んでいただくということであれば、皆さんも2日間ぐらいで全体の確認をしてもらえればできるかもしれないですけども。
- 鈴木隆行委員　1、2に関してだけ出すっていうことの話ですか。
- 水津職務代理　じゃ駄目なのかと私は聞いているのです。
- 鈴木隆行委員　そうだとした場合に、今の議論では、1番の第2段落と2番の(4)の「市民みんな」の部分というのが大きなポイントなので、そこに関して出た意見で修正案を出してもらおう。もしくはある程度そこについて修正してくださいとして、委任をしまっただけで、本体会議に参加するメンバーなので、それでいいっていうことですかね。
- 子育て支援課長　本体会議で質疑が出たときに、部会長の説明だけではなく、この会議ではこういう経過があって、こういうふうな修正をして、さらに修正が加わる可能性がありますというところについて、一応外部の皆さんからも御意見を頂いて。次本体はリモートの予定なので、そういう議論をするのはちょっとやりにくいかなという気もしてはいますので、あまり不確定要素が強い部分が多いまま、3番は載せるとちょっと分かりにくくなってしまわないかなと思って。であれば、2番まで。
- 萬羽部会長　それ自体は全然いいと思うんですけども、となるときに、8月の会議で、3は初めて出すことになりますよね。
- 子育て支援課長　なりますよね。

- 萬羽部会長 大丈夫なのであれば、それでいいと思うんですけども。
- 子育て支援課長 大丈夫かどうかは皆さんの協力も含めてになると思いますけれども。
- 萬羽部会長 分かりました。その方法がなしではないのだったら、それでいきますか。3は出さない。
- 水津職務代理 3を出すのは不可能だと思うので、出すにしても2まで。
- 萬羽部会長 分かりました。
- 水津職務代理 例えば3について、もう少し掘り下げて考えたいということであれば、時間がないですよね。なので、任期替えがあるので、メンバーが変わっても継続議論をしていくとすというの、やり方としてはあるかなと。
- 子育て支援課長 例えば2までのところを任期である程度固めましたというところの報告にして、次の任期の中でぜひ継続してほしいという御意見を残して、一旦任期を終えていただき、次の任期の方の中でまた居場所部会を募るという流れにして、3番についてさらに時間をかけるというのもいいですけども、間に合わなくなっちゃいますよね。それでもよければ、それでもよければって悪い言い方をしたいわけじゃなくて。
- 水津職務代理 それなのよ。
- 子育て支援課長 別にこれがないければやる気ありませんと言っているわけではないので、これも後ろ盾にしながら、考えるべきところは部局としては考えてはいきますけれども。
- 村上委員 逆に期間中にある程度まとめたほうがいいんじゃないかと思いますけれども。
- 子育て支援課長 本来的にはその予定だったので。
- 村上委員 後の方に渡すというのは、ちょっとおかしいと思いますよ。
- 水津職務代理 じゃあ、2まで報告して、3に関しては次回頑張る。で、8月の本体会議で出す。
- 萬羽部会長 では、ちょっとなかなかすみません。予定どおりの進行にならず申し訳ありませんが、今のお話で、2番までを次のところまでに修正。修正はメールでやり取りして。
- 子育て支援課長 そうですね。今日おっしゃっていただいたところで、議論が全部尽くされたわけではない部分もあるので、水曜日までで、今日の御意見の補足とかください。メールをください。御意見を踏まえて、さらに頂いたメールの部分も踏まえて検討はしますが、行ったり来たりしていて、結論が出ないまま次に進んでいる部分もあると思うので、ここは重要と思うところは、それも改めてもう1回メールしてください。
- 録音していますけれども、全部起こしきれないと思うので、協力をしていただけたらありがたいです。それを踏まえて、こちらのほうで検討して、一旦部会長と職務代理に

相談をした上で、また皆さんにメールをしますので、次に出すのは2までにします。ただ、御意見としては3まで頂いたほうがいいかなと思います。今後のことも踏まえて、2と3のつながりがある部分もあると思うので、そういう流れでお願いします。

あと、皆さんにメールをお返した後に、また確認してくださいという期間は短くなっちゃうかもしれないですけども、申し訳ないですが、そこもできる限り御協力をお願いします。

○萬羽部会長　では、次第の(2)は以上としたいと思います。

本日の審議事項は以上となります。最後に事務局から次回の予定につきまして、連絡事項をお願いします。

○子育て支援係長　次回の日程ですが、7月16日。すみません。短期間内に皆様に会議時間の前倒しということで、18時もしくは18時30分からということで御都合悪い方いらっしゃいましたらということでアナウンスさせていただいたところですけども、どなた様からも特に御連絡ありませんでした。18時からということでよろしいでしょうか。

そうしましたら、18時から。場所はこちら同じです。801会議室を予定しております。

また、コロナの感染状況等々によりまして、オンラインにするか延期するかみたいな御相談をさせていただく場合もございますので、よろしく願いいたします。

事務局からは以上となります。

○萬羽部会長　では、以上をもちまして、本日の会議を終了いたします。ありがとうございました。

— 了 —